

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【中尾小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	本年度、おおむね確立することができた「振り返りを生かした課題の設定」については、次年度も継続して取り組んでいく。また、ドリルパークの個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。
思考・判断・表現	これまで以上にICT機器の活用を推進し、オンラインプラスや共同編集等で、自分の考えを表現する機会の確保に努める。話し合う活動も十分に確保していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復の時間が十分に確保できていない。	⇒ 授業の最初に前時の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する。【毎時間】 ドリルパークやドリル教材等を活用する時間を設定し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組めるようにする。【毎日】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・算数の「思考・判断・表現」の問題の無回答率が高い。 <指導上の課題> 自分の考えを表現する時間の確保が不十分である。	⇒ ICT機器を効果的に活用し、自分の考えを表現できるようにする。また、話し合い活動を意図的・計画的に設定し、自分の考えを表現する時間を十分に確保する。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	結果分析(管理職・学年主任等)	既習事項の振り返りから本時の課題へとつなげて考えるようにすることで、円滑に学習を進められた。また、ドリルパークやドリル教材等を活用する時間を設定したことで、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保することができた。
思考・判断・表現	B	結果分析(管理職・学年主任等)	ICT機器を効果的に活用することにより、自分の考えを表現する時間や話し合い活動の時間を多く設定することができた。また、R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して92%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、情報の扱い方に関する事項の問題において正答率が高かった。図や語句などの情報の関係や表し方を理解する力が高まってきていると考えられる。 算数では、数と計算の問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、異分母の分数の加法の計算において、通分を正しくできていない児童が多く、大きさの等しい分数への理解が不十分であると考えられる。	調査の振り返り(4月) 調査結果の振り返り(4月)
思考・判断・表現	国語では、書くことの問題において課題がみられた。書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える力が不十分であると考えられる。 算数では、変化と関係の問題において正答率が高かった。百分率と倍の表し方の関係への理解が高まってきていると考えられる。	結果提供(7月) 調査結果分析(7~8月)

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられた。解答類型を見てみると、文章の中から主語と述語を選択する問題で、述語は正しく選択できるが、主語を正しく選択できない児童が多かった。主語は主に「誰が」「何が」にある言葉であることや述語との関係性を丁寧に指導していきたい。 算数では、「数と計算」において課題がみられた。解答類型を見てみると、小数の引き算において位をそろえずに計算してしまったり、小数のかけ算・わり算で小数点の位置をずらしてしまったりする児童がみられた。小数の特徴や整数の計算との違いを理解できるように指導していきたい。	さいたま市学習状況調査
思考・判断・表現	国語では「読むこと」において課題がみられた。解答類型を見てみると、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて読む問題での正答率が低かった。物語単元や説明文単元などを中心として、文章の構成や要点、事実と意見の違いなどについて、系統立てて指導していきたい。 算数では、「変化と関係」において課題がみられた。解答類型を見てみると、線分図に対応する比の関係を考える問題で、部分と全体を正しく把握できない児童や実際の量と比の値を正しく当てはめられない児童が多かった。図、グラフ、表などの非連続型テキストを読み取る力が高まるよう、児童自身が書く活動を取り入れたり算数以外の教科でも関連付けて指導をしたりしていきたい。	さいたま市学習状況調査

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	前時の学習を振り返り、本時の学習内容と比較しながら本時の課題を設定している。 授業や家庭学習においてドリルパークやドリル教材等を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいる。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICT機器を効果的に活用し、自分の考えを表現できるようにしている。また、話し合い活動を意図的・計画的に設定することで、自分の考えを表現する時間を確保している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)